

3.2 モニタリング調査項目の設定

妙典橋建設に伴って影響をモニタリングするための環境及び対象種として、以下の項目のモニタリングを実施した。以下に、それぞれの調査の選定理由と目的を示す。

(1) 水質・底質調査（生息環境の観点からの調査）

事業実施区域の水質・底質をモニタリングする目的で実施した。水質調査は、特に橋梁工事区域周辺の水質を把握するため、河川表層水の採水による分析及び、現地における観測機器を用いた水質の測定を実施した。

底質については、トビハゼが生息する区域の底質（特にシルト粘土分の含有率）が工事实施によって変化していないかを把握するために、底質の性状確認及び定点採集と粒度組成分析を実施した。

(2) トビハゼ調査（生物生息状況の観点からの調査）

トビハゼを干潟生態系の健全性を指標する種として位置づけ、生態系の保全を図ることを目的として、事業実施区域のトビハゼの確認個体数をモニタリングした。

調査は、目視観測による個体数計数調査によって実施した。

(3) 水鳥調査（生物生息状況の観点からの調査）

水鳥類を干潟生態系の健全性を指標する種として位置づけ、生態系の保全を図るため、事業実施区域周辺に存在する干潟周辺の水鳥類の生息状況をモニタリングした。調査は、目視観測による個体数計数調査によって実施した。また、橋梁工事の影響で、行動に変化が生じることが想定されるため、設定した注目種 10 種について、行動（休息、摂食、飛翔、遊泳）の状況を記録した。